



優しい馬のセラピー

心あったかニュース

先月号に続き、和種馬の牧場ホースランド大阪のHPを見ると、乗馬や触れ合い、和装騎乗撮影が楽しめるようです。今年のニュースで素敵な内容があったので紹介します。発達障害児の成長を“道産子”がサポート日本初・ホースセラピーに取り組む放課後デイ その効果とは まいどなニュースより

一般社団法人「日本在来馬振興会」代表の横山さんは、長い海外生活でフランスのテレビニュースで観たワンシーンが離れなかつたという。それは1頭のよく手入れされた馬が介護施設らしき建物の部屋を訪問。男性が横たわるベッドの側に行き、鼻を男性の顔に寄せると、男性は手でゆつくりと馬のたてがみをさすっていた。まるでファンタジーの1コマを観るような気分でした。馬が人間の部屋に入って友達同士のようになら親しくする。日本では考えられない光景だった「エこれは、クインアシステッドセラピーと言われる馬介在療法で、日本では

ホースセラピーと呼ばれている。欧米では1960年ごろから始まり、動物介在療法の一つとして確立され、運動機能の回復促進や情緒や精神の安定に寄与している。そこで横山さんは人懐っこくて優しい和種馬ホースランドの馬たちをホースセラピーにいかせないかと思いついたが、確信はなかつたことから獣医でホースセラピーの権威でもある東京農大の川嶋舟准教授に相談。和種馬ホースランドを訪れた際に「この馬たちは十分ホースセラピーに使えますよ」という、お墨付きをもたらったという。

ホースセラピーでは、馬の餌やりや馬の観察、乗馬などを通じて情緒の安定や精神と身体の機能向上を目指している。馬に餌を与えたり、馬の世話や観察をすることで優しさや思いやりが芽生え、情緒の安定にも繋がります。また馬に乗ることでバランスの取り方を覚え、自然に全身の筋肉強化を行うことができま

す。馬を観察して絵に表現することで、注意力、集中力の向上と情緒の安定をはかっているそうです。馬と触れ合い、絵を描くことによつて会話の機会も増えますし、何より子どもたちの表情や目の輝きが違ってくる。心身のケアをすることができれば、馬も人もハッピーになれる。

今後は道産子以外の和種馬とも関わって、彼らの活躍の場を広げて絶滅を防ぎたい」と横山さんは話している。

アニマルセラピーを調べると、不登校や引きこもりといった問題、あるいは小児がんなどの治療力強化を目指す技術の1つとして知られ、馬やイルカなど、情緒水準が高度と言われる哺乳類との交流を通じて、他者を信頼できるようにするといふ。馬を通じてアニマルセラピーは、モンゴル国で盛んに行われている。ウイキペディアより)

編集後記

優しい動物と仲良くして、本来の元氣を取り戻す。自然と接している動物は、私たちが忘れていくものを、もっているのかもしれない。地球にいる仲間として、お互いにより関係にしたいと思いました。

